

ドキシル療法

外科: 管理番号 E11

処方医

適応: 卵巣がん

4週を1コースとし投与をくりかえす

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	
ドキシル	●																													●

[投与スケジュール] (クール目)

身長: cm 体重: kg 体表面積 m² 輸液ポンプを使用すること
DAY 1(月 日) インラインフィルター使用禁

本管		側管	
薬剤名	投与量	薬剤名	投与量
生食100mL デキサート [30分 点滴静注]	1瓶 6.6mg	手首、足首の冷却 (ドキシル投与15分前から投与15分後まで) 5%ブドウ糖液250mL ドキシル 40~50mg/m ² * [90分 点滴静注](炎症性) 本管開始10分後に開始 インフュージョンリアクション注意 投与から特に30分間	1瓶
5%ブドウ糖液100mL [100分 点滴静注]	1瓶		1瓶
			1瓶

プライミンク

* 1mg/minを越えない
* 90mg以上の投与時は500mLに希釈し120分で投与

DAY2(月 日)~DAY3(月 日)

薬剤名	投与量	
デカドロン錠	8mg	1x朝食後

[初回適性使用基準]

全身状態	PS	0~2
骨髄抑制	白血球数	3000~12000
	好中球数	1500以上
	ヘモグロビン	9.0以上
	血小板数	10万以上
肝機能	GOT	施設正常上限値の2.5倍以下
	GPT	施設正常上限値の2.5倍以下
	ALP	施設正常上限値の2.5倍以下
	TBIL	1.2mg/dL未満:通常量 1.2~3mg/dL未満:通常量の3/4 3mg/dLを超える:通常量の1/2
腎機能	血清クレアチン	施設正常上限値の1.5倍以下
心機能	LVEF値	50%以上
	心電図	正常または無症状かつ治療を必要としない程度の変化
	心機能評価	心疾患がない、又は心疾患を有するNYHA分類 I

[DLF] ドキシル:下痢、感染、
低酸素症

[今回の投与量] mg

[累積投与量] mg

- ・500mg/m²をこえない
- ・300mg/m²を超えた時点でLVEF実施
- ・400mg/m²を超えた場合には毎コースLVEF実施

[次コース開始判断の目安]

全身状態	PS	0~2
骨髄抑制	好中球数	1500(Grade1以下) (上記基準を満たすまで最長2週間延期)
	血小板数	7.5万以上(Grade1以下) (上記基準を満たすまで最長2週間延期)
肝機能	TBIL	1.2mg/dL未満
非血液毒性	手足症候群 口内炎	Grade1以下 Grade3,4の本事象を経験していない場合:減量なしで投与再開 Grade3,4の本事象を経験している場合:25%減量の上投与再開 (上記基準を満たすまで最長2週間延期) (最長2週間延期してもGrade2の場合:25%減量の上投与再開)

その他の副作用	Grade2以下
---------	----------

[副作用に対する減量の目安]

[副作用に対する減量の目安]			投与量
骨髄抑制	好中球数 血小板数	・7日以上継続または本剤投与後22日までに軽快しない Grade4の好中球減少症 ・Grade3の発熱性好中球減少症 ・Grade4の血小板減少症	25%減量 または G-CSF併用
肝機能	TBIL	1. 2~3mg/dL以下	25%減量
		3mg/dLを超える	50%減量
非血液 毒性	手足症候群 口内炎	Grade3、4	Grade0~2に回復
	その他の 副作用	Grade3、4	Grade0~2に回復

[投与中止の目安]

検査項目	次コース投与時	中止を要する基準
心機能	LVEF値	45%を下回った時、又はベースラインよりも20%以上低下した時
肝機能	TBIL	3mg/dLを超える
非血液 毒性	手足症候群 口内炎	Grade3、4 最長2週間延期してもGrade2以下に軽快しない
その他の副作用	Grade3、4	最長2週間延期してもGrade2以下に回復しない

[重大な副作用]

《ドキシル》

- ・心筋障害
- ・骨髄抑制
- ・Infusion reaction
- ・手足症候群
- ・口内炎
- ・肝機能障害
- ・間質性肺疾患
- ・肺塞栓症
- ・深部静脈血栓症